

# さんけん新聞

発行  
NPO法人  
三段峡-太田川  
流域研究会  
(代表・本宮炎)

〒731-3813  
広島県山県郡  
安芸太田町  
柴木1734  
090-34213046

## 一口メモ

▼断崖の見頃  
冬の三段峡は静まり返る。雪崩や落石の危険があり、狭い探勝路は人を寄せつけぬ時期がある。つけない時期がある。が、渓谷の断崖を見るには、裸の木が好都合で、雪が降る前か、雪解けの頃がお薦め。清冽な流れも見通せる。厳冬の前後に、春や秋にはない、もう一つの「見頃」がある。

## 筒賀小と安芸太田中で学習プログラム実施 地域の自然・魅力 次世代へ

自然や古里の魅力を伝える学習プログラムを11月、「さんけん」が協力して、筒賀小学校と安芸太田中学校の子供たちを対象に実施した。小学5、6年生7人は龍頭峽のコケ観察とコケテラリウムづくりを体験し、中学1年生13人は三段峽の清掃ボランティアとポスター制作の写真撮影に取り組んだ。



雪の渓谷を撮影する中学生



採集したコケを覗き込む小学生

### 筒賀小 コケの生態に興味

一日の観察会では種類の多さや生育場所の違いを知り、図鑑で名前を確かめた。コケへの興味も段々に湧き、森は様々な生き物が支え合って成り立っているの

### 安芸太田中 墨絵の渓谷ゲッツ

二十四日は生憎の雪。四班に分かれた生徒は、ゴミ袋とカメラを手に、さんけた

### サバの頭~天狗ヶ岳の稜線探索 昔の道 見つからず

本宮理事長夫妻と松尾、岡の両理事の四人が十一月十五日、三段峽の屋根ともいえるサバの頭(一〇七三)から天狗ヶ岳への稜線を探し、切れ込んだ渓谷



巨岩へ向かって登る松尾理事

ケ岳、左が黒淵荘裏の絶壁に分れた。黒淵荘裏の六八九まで進んだが、探索目的だった

### 南峰と歩く④ 葎ヶ原(よしがはら)

### 旅館が開業 三段峽を去る一因に

三段峽のちょうど中間、八幡川と横川川が合わり、柴木川と名を変えるあたりが葎ヶ原である。峽内

芸北まで柴木川になっているが、私は八幡川と呼ぶ。熊南峰は一九二六年、葎ヶ原(葎ヶ原と表記)を初めて景勝名とした。景勝とは考えたのだろう。

四八年、高下常市が「三段荘」を再建した。その三年前、南峰を竜ノ口へ案内した十三歳の常市少年は、三段峽事業を担う

### 都市へ発信 橋渡し役

瀬尾 淳さん

### この人



広島市内で印刷会社を営み、週末は安芸太田町小坂の別荘で過ごす。頼まれたら嫌と言えない優しい中小企業診断士の顔も合わせ持っている。

経歴を生かして「さんけん」では総務を担当しながら、広島企業と三段峽の橋渡し役を務めている。現在、平和教育でヒロシマを訪れた修学旅行生を安芸太田町へ引き込むプランを練っている。「地方再生はプロダクトアウト、地域の想いが大切」と語り、三段峽のメッセージを都市へ届ける。(炎)